

治療医療機関の種別・規模による食道がん患者の生存率較差

田中 英夫* 味木 和喜子 津熊 秀明 大島 明

1. 目的

食道がんは消化器がんの中で難治がんに属する。本研究では、食道がんの予後較差は、治療施設間でどの程度あるのか、その較差は縮小してきているのか、を明らかにする。

2. 方法

調査対象：1975年～92年に大阪府がん登録に届出のあった食道がん患者のうち、発見動機が集検、健診の者、大阪市内在住、39歳以下か80歳以上、治療施設が病院以外か不明であった者を除いた、残りの2934人。治療施設の種類：主たる治療施設を、大学病院または成

人病センターを特定病院群、特定病院群以外で400床以上の病院を大病院群、150床以上399床以下を中病院群、20床以上149床以下を小病院群とした。集計：診断年によって、1975年～80年（I期）、1981年～84年（II期）、1985年～88年（III期）および1989年～92年（IV期）とし、病院群別に5年相対生存率を算出。次に、特定病院群で治療を受けた患者を基準とした時の、他の病院群で治療を受けた患者のハザード比を計算した。なお、小病院群で治療を受けた患者は全期間を通じ160人と少ないので、生存率およびハザード比は示していない。

3. 結果

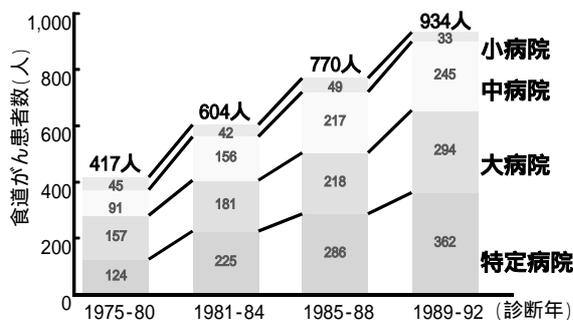


図1 治療医療施設別に見た食道がん患者数の推移 (大阪)

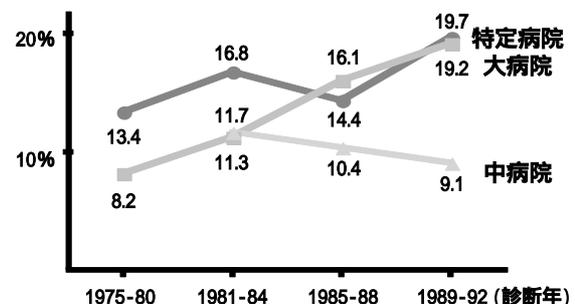


図2 食道がん患者の5年相対生存率・治療医療施設別(大阪)

表. 治療医療機関の種類・規模別にみた食道がん患者の死亡リスク比

	1975-80		1981-84		1985-88		1989-92	
	HR	95% CI						
特定病院群	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
大病院群	1.21	0.96-1.54	1.11	0.89-1.38	1.05	0.87-1.27	0.95	0.79-1.12
中病院群	1.50	1.15-1.95	1.27	1.01-1.60	1.24	1.03-1.50	1.21	1.01-1.44

HR:ハザード比、性、年齢、臨床進行度を調整

*大阪府立成人病センター調査部

〒537-8511 大阪市東成区中道 1-3-3

4. 結論

(1)1975年～92年の17年間を通じ、食道がんの治療施設間の予後較差を、大阪府がん登録資料を活用して調べた。(2)大病院と特定病院との間に1975年～80年診断当時の患者に見られていた予後較差(調整HR=1.21)は、その後大病院で主治療を受けた患者の予後が特定病

院のそれに追いつき、1989年～92年診断患者においては較差が消失していた(調整HR=0.95)。 (3)中病院で主治療を受けた患者の予後は、特定病院で主治療を受けた患者の予後に比べて全期間を通じて有意に低かったが、その較差は次第に縮小していた(調整HR:1.50 1.27 1.24 1.21)。